

インバウンド市場で存在感を増す韓国

経済調査部 エコノミスト 齋藤 麻菜(さいとう まな)(現 第一生命保険株式会社勤務)

訪日外国人の増加が続く

訪日外国人数の堅調な増加が続いています(資料1)。訪日外国人数は、2012年には836万人でしたが、2013年には1,000万人、2015年には2,000万人を超え、直近2017年には2,869万人となりました。過去最高を5年連続で更新する結果となっています。人口減少が深刻化していく日本にとって、海外需要の取り込みは重要な課題です。

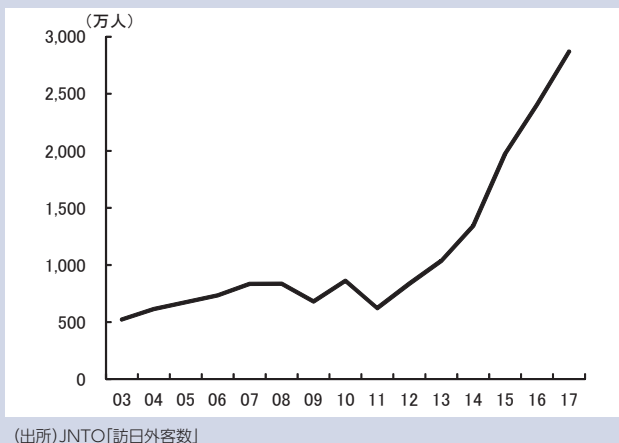
存在感を増す韓国からの訪日客

2017年の訪日外国人数を国別で見ると、アジアが占める割合は全体のうち8割超となっています。近年の増加を牽引しているのもアジアからの訪日客です。円安が続いていた影響に加え、近隣国である中国を始めとしたアジア諸国の経済成長が進んだことが、訪日外国人数の増加に繋がったといえます。

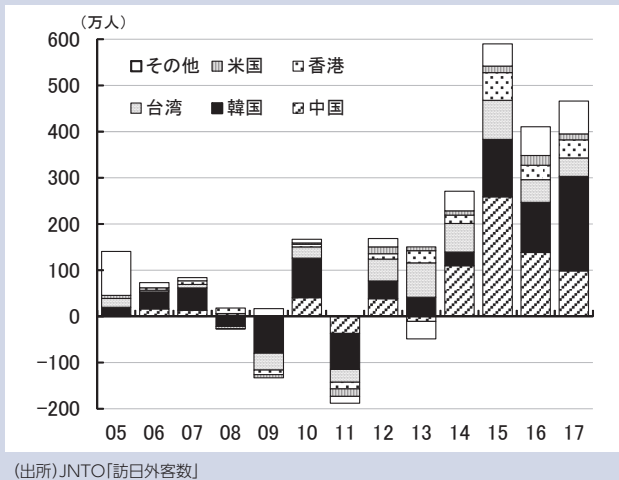
中でも、2017年に大きく増加したのは韓国からの訪日客です(資料2)。「爆買い」ブーム一服の中で中国からの訪日客の増加ペースが鈍化する一方、韓国からの訪日客は2017年には前年差+205万人と大きく増加しています。大きな要因は、観光インフラの拡充が進んだことです。韓国の格安航空会社(LCC)は、日本への運航便数を、過去3年で141便/週(2014年冬)から604便/週(2017年冬)へと大幅に増便しています。これは全LCC増加便数の半分以上を占めており、急速な増加といえます。元来の距離の近さに加え、利便性の向上や格安での旅行が可能になったことで、日本への気軽な訪問が可能となり、訪日客が増加したと考えられます。

政府は、2016年の「明日の日本を支える観光ビジョン」において、2020年の訪日外国人数を4,000万人(2017年の約1.4倍)にする目標を掲げています(資料3)。韓国のLCCは2018年にも増便が計画されており、今後も政府の改革が進み、訪日外国人客が増加していくことが期待されます。

資料1 訪日外国人数の推移



資料2 国別訪日外客数(前年差)



資料3 政府の目標値

	2020年	2030年
訪日外国人旅行客数	4,000万人	6,000万人
訪日外国人旅行消費額	8兆円	15兆円
地方部での外国人延べ宿泊者数	7,000万人泊	1億3,000万人泊
外国人リピーター数	2,400万人	3,600万人

(出所)観光庁「明日の日本を支える観光ビジョン」